

2023年度 関西学院大学 海外客員教員(招聘C) 成果報告書

書式 1

(適宜行追加可)

受入担当 教員	所属・職	社会学部・教授
	氏名	西村 正男
海外客員 教員	所属・職	上海立信會計金融学院 人文芸術学院・講師
	氏名	楊 青泉
招聘目的	1. 授業担当及び研究 ②. 共同研究 3. 特別枠 (いずれかに○)	
招聘期間	2022年 12月 1日 ~ 2023年 9月 19日	
成果報告 以下の内容を日本語で記載して下さい。	<p>(1) 共同研究の内容</p> <p>共同研究のテーマは「「媒介」としての日本：『新青年』雑誌(1915-1922)を中心とした考察」というものであった。魯迅をはじめ、『新青年』に携わった知識人の中には、日本留学を経験した人も少なくない。だが楊氏の興味は、これら五四新文化運動期の日中文化交流にとどまらず、文学者のマカオ体験など、中国語圏の近現代文化全般についての幅広いものであった。そのため、五四新文化運動にとどまらず、受け入れ担当教員のアドバイスの下、日本にある中国語圏文化に関する様々な資料・書籍を収集した。それに加え、受け入れ担当教員の紹介の下、日本の研究者とも積極的に交流を行った。本学の言語コミュニケーション文化研究科の学生に対してアドバイスを行ったほか、日本華文女作家協会の講演イベントに参加し、また中国作家・張愛玲の専門家である邵迎建博士(元徳島大学教授)とも意見交換を行った。</p> <p>なお、楊氏の日本における学術交流の詳細は、立信會計金融学院・人文芸術学院のウェブサイト https://rwysxy.lixin.edu.cn/hydt/125117.htm にも紹介されているので、参照していただければ幸いである。</p> <p>(2) 共同研究の成果</p> <p>共同研究においては、上海及び香港・マカオの文化史における様々な人物・事物について、あるいは日中両国の資料所蔵状況について意見交換を行い、客員教員・受け入れ教員の双方にとって得るところ大であった。受入担当教員は、日本現代中国学会2023年度関西部会大会や第11回東アジアと同時代日本語文学フォーラムにおける研究発表において、日中文化交流についての楊氏との意見交換の成果を取り入れた。また、ミネルヴァ書房より近刊の論文集の中にも、意見交換の成果を取り入れる予定である。今後も意見交換や相互の資料提供に基づき、それぞれが研究成果を発表する予定である。</p>	
1. 授業担当及び研究 (1) 授業科目名 (2) 授業担当の成果 (3) 研究の内容 (4) 研究の成果		
2. 共同研究 (1) 共同研究の内容 (2) 共同研究の成果		
3. 特別枠 (1) 活動内容 (2) 成果		

受入担当教員が成果報告欄を記入される場合は本書式をお使いください。

* 本報告書は本学ウェブサイト等で公開されます